

【技能検定活用事例④】

株式会社東芝／ 東芝エネルギーシステムズ株式会社 府中事業所

■会社概要

所在地：東京都府中市東芝町1

昭和15年創業／

公式HP <https://www.global.toshiba/jp>

業務直結ではなくとも社会に通用する力を 可視化できる点に意味がある技能検定

東京都府中市に広がる株式会社東芝の中核拠点、府中事業所。エネルギー、デジタルインフラ関連技術など、社会を支える製品の開発・設計・製造を担い、日本の産業を下支えしてきました。広大な敷地に集積された高度な技術は時代とともに進化し続けています。その基盤となるのが人材育成の取組みであり、技能検定もかなり早い段階から活用されてきました。現在、技能検定の位置づけはどう変化したのか。技能検定の事務担当者に話を聞きました。

——まずは府中事業所の概要、特色と求める人材像についてお願いします

担当者 府中事業所は東芝の中でも最大規模の拠点です。昭和15年に鉄道車両製造工場としてスタートし、現在は発電所や上下水道の監視制御システム、放送・通信設備、エレベータに代表される建物用機器、鉄道車両・鉄道制御システムなど、社会インフラを支える製品の開発・製造を幅広く担っています。



写真提供元：
株式会社東芝／東芝エネルギーシステムズ株式会社
府中事業所

当社が求めているのは、「人と自然が共生する社会」および「安心・安全な社会」の実現を支えられる人材です。当事業所では、東芝の強みであるエネルギー・デジタルインフラに関わる事業に携わっておりますが、これらを通じ、その先にある社会課題の解決を目指しています。

—どのような社員の方々が技能検定を受検されるのでしょうか

担当者 主に20代から30代の比較的若手の社員が中心です。職場内で「そろそろ受けてみたらどうか」といった声かけがあり、それが受検のきっかけになっているケースも多いようです。

特級についても毎回一定数の受検者がおり、こちらは中堅層が中心です。特級に関しては、誰かに勧められてというよりも、自らの意思で積極的に挑戦する社員が多い傾向にあります。

—貴社における技能検定の位置づけというのは？

担当者 職種にもよりますが、技能検定は、当社においては業務に直結した資格というよりも、自己啓発の一環として位置づけています。というのも、検定で求められる知識や技能と、実際の事業で必要とされる内容には一定の乖離があるためです。そのため「現在のスキルに応じて受検する」といった直線的な運用ではなく、各自の意思に委ねています。

一方で、技能検定は自身の能力の社外通用性を可視化できる貴重な機会でもあります。業務では得にくい基礎的な知識・技能を体系的に学ぶことで、新たな発想のきっかけになるという声も多く、キャリアの節目に受検する社員もいます。

こうした様々な波及効果があるので、業務に直結しなくても、技能検定を受検する意義はあると感じています。

—ありがとうございます。ちなみに多く受検されている技能検定の職種は何でしょうか

担当者 一番多いのは、「電気機器組立て」の「配電盤・制御盤組立て作業」です。この職種に関しては1級、2級、特級いずれも受検者がおります。他には「電子機器組立て」の「電子機器組立て作業」、「鉄工」の「製缶作業」あたりでしょうか。それとプリント配線盤を手がけている関連会社では「プリント配線板製造作業」を受検している社員が多く見られます。

—業務に直結する技能のスキルアップの機会はあるのでしょうか。

担当者 技能系の新卒入社者は当社の訓練校である東芝テクニカルスクールで約1年、

基礎技能と社会人としての基本的なことを習得する研修を実施しています。また、特定の作業に従事するには社内の技量認定を受けることを必須としています。

——なるほど。では、技能検定受検に際してどのようなサポートをされているか教えてくださいませんか

担当者 団体扱いで申し込んでおりますので、受検申請の時期が近づくと関連部門に一斉メールを配信し、告知します。府中事業所の敷地内にあるグループ会社、協力会社の方々にも連絡をしています。



実技試験対策として終業後に職場や教育・研修用のエリアで練習するのが一般的になっています。その際、配電盤・制御盤が必要な職種の受検者には会社が所有する練習用機材を無償で貸し出しています。前年の実技試験で出た余剰分を練習用に充当することもあります。

学科試験対策としては、会社として過去問題の提供はしておりませんが、個人的に先輩に相談したりしてそれぞれ学習しているようです。

——資格手当の支給は？

担当者 当社では事業に直接的に貢献する資格を対象に報奨金を支給しており、能力の証明としての意味合いが強い資格については原則として支給対象外としています。

ただし、例外として技能検定の特級は報奨金の対象に含めています。特級は最高峰の資格であることから、技能レベルの向上のため、特別に対象としています。

——技能検定の合格前後で従業員みなさんに変化はありますか

担当者 技能検定では非常にベーシックなスキルや知識を習得できるので、それぞれが担当する業務に直接フィードバックはないかもしれませんが、ちょっとした行き詰まり感があったとき、別の新しい方法を考えなければいけないときなどの引き出しとして有効だという話を聞いています。

——最後に、技能検定に期待することを聞かせてください

担当者 受検によるメリットがより明確になることを期待しています。例えば、報奨だけでなく、社会的な承認やキャリア上の価値が実感できる仕組みです。また、監理技術

者のように資格保有が受注・業務遂行の要件と結びつく制度があれば、企業としてもより積極的に投資しやすくなるでしょう。ただし、合理的な理由なく単なる制約として導入されることがないようにしなければ、理解は得られないかもしれません。

また、特に若手社員にとって、技能検定が大きな意味を持つ資格になっていくことを望んでいます。社外通用性のある力量証明としての価値が高まれば、自己効力感やモチベーションの向上にもつながり、受検者の視野も広がっていくはずです。

<まとめ～お話をうかがって～>

東芝府中事業所では、技能検定を業務直結の評価指標ではなく、社外に通用する、能力可視化の機会として捉えておられました。また、技能検定のように基礎力を体系的に確認できる仕組みは、個々の社員にとって新たな視点や発想をもたらす契機になっているとのこと。若手の成長実感やキャリア形成をどう結びつけていくか。技能検定の価値を問い直す良い機会をいただくことができました。

本記事に含まれる文章、画像及びその他のコンテンツに関する著作権は、中央職業能力開発協会または株式会社東芝／東芝エネルギーシステムズ株式会社に帰属します。無断での転載や加工及び配布はご遠慮ください。

※掲載内容は取材当時（令和8年3月）のものです。